

# 「DVをもっと詳しく説明すると」

テレワークで、仕事と家庭の境がなくなった

## 家庭の中

家庭の中で行なわれるため、外部から被害が発見されにくく、潜在化します。

暴力の背景には、「男性は仕事」「女性は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識【ジェンダー】の考え方が影響しています。



**恐怖を与えない、対等に尊重する態度が必要**

加害者側にも、生き辛さがあるかもしれませんが・・・  
もっと辛いのは、被害者や子どもです。  
思い通りにならないからと言って、暴力・暴言をしてはいけません。

**「怒り」のコントロールが必要**

「怒り」は、加害者自身が選択した結果と言われます。  
「怒り」を感じたら、その場を離れる、深呼吸するなど、  
対策を考えてはどうでしょうか【アンガーマネジメント】

相手を「最も身近で大切な人」として、想う気持ちが必要です。

**子どもへの虐待が潜むケースも**

- ・DVの背景には、児童虐待が潜んでいる場合があります。  
子どものいる前で口論や暴力がある場合、子どもへの心理的虐待に当たります。
- ・心理的虐待を受けている子どもは、脳の萎縮や複雑性PTSD等の症状が現れることが確認されているため、早期に子どもの相談窓口へご相談ください。

**周囲の方へ**

被害者を孤立させないためには、周囲の方の「気づき」が必要です。  
DV相談窓口を紹介していただくことで、被害者は支援に繋がることができます。

◎岡崎市女性相談	23-6778	月～金	8時30分～17時
	23-3241	水以外	10時30分～16時30分
◎岡崎市男性相談	080-2639-2111	水	17時～20時
◎子どもの相談窓口 岡崎市家庭児童課	23-6745	月～金	8時30分～17時15分

**まずは、加害者、被害者共に、DVの気づきが必要**